

2. 改良式起立台の工夫

国立療養所南九州病院

新屋正信 今隈 満
福永秀敏 中島洋明

〔はじめに〕

PMD患者の歩行能力は、筋力以外に関節の拘縮に大きく左右され、特に車椅子への移行期のPMD児では、足、膝、股関節の拘縮予防が重要な意義をもつ。歩行可能な例で、歩行のスタートに困難を覚えることがよくあり、特に朝の起床時は、歩行スタートの困難を訴える。しかしこの場合、しばらく起立させておくと、かなりスムーズに歩行ができるようになる事から、stage 3~4のPMD児に、起立訓練を大巾に取り入れることにし、合せて諸関節の拘縮予防や矯正に役立てようと考えたが、市販の起立訓練台にいくつかの問題が生じてきた。まづ既製のものはやはり高価であるため、起立台を増やせないこと、何処でも簡単に使用できないことが主な問題点であった。

〔方法〕

low costとするため木製とし、移動が簡単にできるようにキャスターをつけ、授業中にも使用できるように学習テーブルをそなえた(図1参照)

〔結果と結語〕

図2

改良式起立台使用時間

	年齢	ADL	朝昼夜	訓練	授業
I T	8Y	4	+	20分	40分
K K	11	3	+ +	20	40
H T	12	4	+ + +	20	40
O K	12	4			40
B Y	12	3			40
T K	12	2			40

28例中6例

図3 改良式起立台による経過
症例 I.T. 4Y. DMDMP

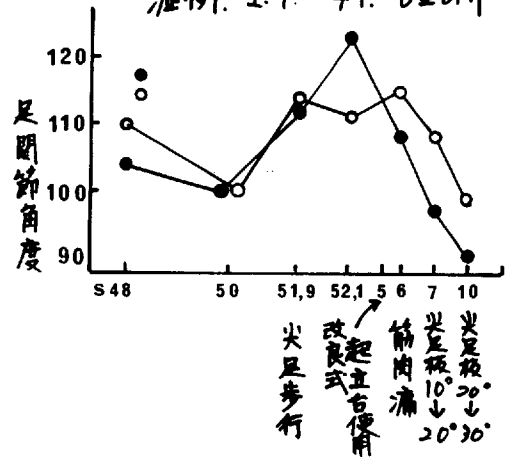


図2の如く起立訓練を行っている28例中6例の患者に、改良式起立台を使用し、起立訓練時間を大巾に増やすことができた。症例(I.T)は、改良式起立台により、尖足が著しく好転した。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

〔はじめに〕

PMD 患者の歩行能力は、筋力以外に関節の拘縮に大きく左右され、特に車椅子への移行期の PMD 児では、足、膝、股関節の拘縮予防が重要な意義をもつ。歩行可能な例で、歩行のスタートに困難を覚えることがよくあり、特に朝の起床時は、歩行スタートの困難を訴える。しかしこの場合、しばらく起立させておくと、かなりスムーズに歩行ができるようになる事から、stage 3~4 の PMD 児に、起立訓練を大巾に取り入れることにし、合せて諸関節の拘縮予防や矯正に役立てようと考えたが、市販の起立訓練台にいくつかの問題が生じてきた。まづ既製のものはやはり高価であるため、起立台を増やせないこと、何処でも簡単に使用できないことが主な問題点であった。